



令和7年度リーディングDXスクール事業指定校

西脇市立西脇南中学校 リーディングDXスクール事業 授業研究会 (令和7年9月24日)

研究事業指導案



社会科学習指導案

実施学級 第 3 学年 2 組 3 9 名
実施日時 令和 7 年 9 月 2 4 日 5 時限
実施場所 多目的教室
指 導 者 横川 和成

1 単元名

人権と日本国憲法

2 単元目標

- ・ 基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則とした日本国憲法の意義について理解している。
- ・ 日本国憲法の国民主権及び平和主義を実現するための国や市民のあり方について、多面的・多角的に考察し、自らの意見を示すことができる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則とした日本国憲法の意義について理解している。（近代憲法概念の理解）
思考・判断・表現	個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本国憲法の国民主権及び平和主義を実現するための国や市民のあり方について、多面的・多角的に考察し自らの意見を示すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	投票率の低下、選挙年齢の引き下げ、核兵器禁止条約といった現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 単元全体の指導計画（全 5 時間）

第一次	①/ 5	授業名	人権の歴史と日本国憲法
		ねらい	人権の歴史を踏まえ、人権と憲法の関係から法の支配について理解できる。
		「深い学び」への指導ポイント	憲法違反かそうでないかを考える問題の選択基準を議論させることで、憲法国家のあり方や権力を制約する法であることに気づかせる。
第二次	②/ 5	授業名	国民主権と私たちの責任
		ねらい	民主主義社会で生きる国民に必要な力について考えることができる。
		「深い学び」への指導ポイント	多数決の論理の課題点について議論し、民主主義に必要な市民の資質について個人の考えをteamsに投稿することで、他者の意見を参照できるようにする。

第三次	③、④/5	授業名	平和主義の意義と日本の役割
		ねらい	世界と自国の平和のために日本が果たす役割について、自分の考えを述べることができる。
		「深い学び」への指導ポイント	核兵器禁止条約と集団的自衛権に関する自己の意見を形成することを通して、平和主義の曖昧さを捉える。
第四次	⑤/5	授業名	基本的人権と個人の尊重
		ねらい	個人の尊重とはどのようなことを法の下での平等に着目して考察することができる。
		「深い学び」への指導ポイント	「ちがいのちがい」のワークに取り組み、グループごとにマトリックスに整理するとともに、分類した基準や理由を明確にする。

5. 本時（第3次 1時間目）

（1）本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	日本国憲法が定める平和主義の考え方について、歴史的分野の既習事項を踏まえて、理解できる。	広島の平和記念公園の写真から、歴史的分野の学習を想起させるとともに、憲法9条の条文について全体での読み取りをする。
思考力、判断力、表現力等	平和主義を掲げる日本が国際社会で果たすべき役割について、核兵器禁止条約をもとに考えることができる。	核兵器禁止条約に関わる対立構造をスライドに整理し、自らの意見を根拠に基づいて述べられるようにする。

（2）教材

プロジェクター 提示用 PC タブレット端末 トランプ
資料（絵本：核兵器禁止条約ってなんだろう）

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	Teams に投稿された内容を教師が集約し、生成 AI を用いて立場を整理することで、対立構造や全体の意見の動向を生徒がつかみやすくする。
個別最適な学び	Power point のスライド（またはプリント）に、簡易的なバタフライチャートを用いることで、対立する構造をとらえやすくする。
協働的な学び	ジレンマゲームの振り返りを班ごとに行うことで、相手国がいる平和の難しさや核兵器を持つことが与える影響について考えを共有できるようにする。

(4) 学習の展開

[illegible]

理科学習指導案

実施学級 第2学年3組41名
実施日時 令和7年9月24日 5時限
実施場所 第1理科室
指導者 亀野 奈央

1 単元名 植物の体のつくりとはたらき

2 単元目標 身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見だし、科学的な根拠に基づいて表現する。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	植物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
思考・判断・表現	植物の体のつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見出して表現しているなど、科学的に探究している。
学びに向かう力・人間性	植物の体のつくりとはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 単元全体の指導計画（全12時間）

第一次	①②③④ /12	授業名	栄養分をつくる
		ねらい	光合成のはたらきとしくみについて学ぶ
		「深い学び」への指導ポイント	小学校での既習知識と関連付けながら栄養分や気体の性質を調べる実験についての知識と技能を身につけさせる。
第二次	⑤/12	授業名	植物の呼吸
		ねらい	植物の呼吸における気体の出入りについて学ぶ
		「深い学び」への指導ポイント	対照実験を行い比較・条件制御をしながら結論を導く過程を身につけさせる。
第三次	⑥⑦⑧⑨ /12	授業名	水や栄養分を運ぶ
		ねらい	植物の葉・茎・根のつくりとはたらきについて学ぶ
		「深い学び」への指導ポイント	観察を通して維管束や気孔の配置(つくり)と栄養分の運搬や気体の出入り(はたらき)を関連付けて分析させる。

第四次	⑩⑪ /12	授業名	栄養分を取り入れる
		ねらい	唾液によるデンプンの分解について学ぶ
		「深い学び」への 指導ポイント	対照実験を行い比較・条件制御をしながら結論を導く過程を 身につけさせる。
第五次	⑫/12	授業名	身近な植物の探究（本時）
		ねらい	既習知識を活用し植物の栄養分について探究する
		「深い学び」への 指導ポイント	単元を貫く学習課題を設定し解決方法を立案させることで既 習知識の定着と活用を図る。

<本時の内容に関連する生徒の既習事項および成果物>

・教科書

未来へ広がるサイエンス(啓林館)P23、34

・第三次の成果物

[果実に蓄えられる栄養分\(3組\).xlsx](#)

[葉に蓄えられる栄養分\(3組\).xlsx](#)

・第四次の成果物

[食物の消化\(3組\).pptx](#)

[唾液のはたらき①\(ヨウ素デンプン反応\)](#)

[唾液のはたらき②\(ベネジクト反応\)](#)

5. 本時（第五次 1時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	・植物の光合成によって生じた有機物は果実等 にたくわえられることを理解し、有機物の種類 (デンプンまたは糖)や量について、実験を通 して定性的に同定することができる。	学習課題に対する解決方法を生徒自身に立案 させ、実験を行い、結果の分析を通して考察 させる。
思考力、判断力、表現力等	・学習課題解決のために必要な情報を適切に 選択し、見通しをもって解決する方法を立案 して実験を行い、その結果を分析して解釈し、 科学的な根拠に基づいて表現することができる。	共同編集仕様の表計算ソフトを使ったレポ ートを作成させる過程で、学習課題に対する 予想や実験の結果、考察を記入させる。

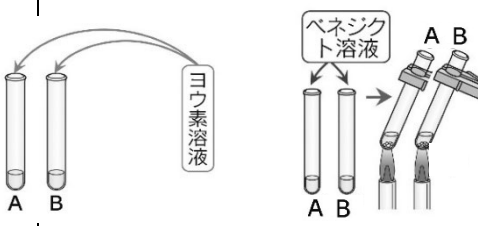
(2) 教材

バナナ(未熟・完熟)、ヨウ素溶液、ベネジクト溶液、沸騰石、生物用ナイフ、スライドガラス、カバーガラス、ピンセット、柄つき針、駒込ピペット、100mL ビーカー、ガラス棒、試験管ばさみ、軍手、ガスバーナー、マッチ、タブレット PC、(その他生徒の実験計画立案に基づき追加する)

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	導入およびまとめの場面において、情報が拡散的にならないように調節し、本時の学習課題に焦点化させる。
個別最適な学び	思考場面でヒントとなる情報(既習事項)を自分で選択できるように、教科書・ノートの該当範囲に加え、これまで作成してきたレポート、参考資料のリンク等をクラウド上で参照できるようにする。
協働的な学び	班ごとに協力して実験を行い、班別共同編集でレポート作成をさせる学習形態により、自然と協働的な学びが生まれる仕組みを作る。

(4) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
具体的な場面を記載 ・学習課題に対して、植物の光合成によって生じた有機物の種類（デンプンまたは糖）や量を定性的に同定する方法を立案して実験を行い、その結果を分析して解釈し、科学的な根拠に基づいた自分なりの答えをレポートで表現することができている。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	バナナ A(未熟)とバナナ B(完熟)で栄養分が多いのはどちらか？ ・学習課題を知り、予想(根拠も併せて)をスプレッドシートに入力する。 予想の根拠は「若い方が栄養が多いから A」「甘い方が栄養が多いから B」など自由に記述する。	・スポーツ選手の栄養補給を例示し、ここでの「栄養分」は「エネルギーのもとになる」ものに絞る。 ・この時点では予想の根拠が科学的なものでなくても可とする。	一斉 個別	予想人数集計(スプレッドシート)
展開 30分	・班別で実験計画を立案する。 ① ヨウ素デンプン反応で A、B が呈色した割合を比較する。 ② ベネジクト反応で A、B が呈色した程度を比較する。 などが考えられるが、他の方法でも構わない。 	・予想をもとに適切な実験計画が立案できるよう机間指導を行う。 ・協力して実験が行えるよう役割分担を促す。 ・安全指導を行う。(ガラス器具、火の取扱い等) ・実験記録は班で共用するが、分析方法や課題に対する考察は各自でまとめさせる。 ・実験時間、レポート作成時間を指定する。 ・数点ピックアップし該当生徒には声掛けをしておく。	協働 協働 個別	ヒントの提示 (Teams) 実験計画の確認と共有(スプレッドシート) 実験ツールとしての PC 利用 (カメラ等) レポート作成(スプレッドシート)
まとめ 10分	・レポートを共有し全体で意見交流をする。 ・共有した情報をもとにレポートに考察等を追加する。(残りは家庭学習とする。)	・数点レポートを紹介し指名発表させる。 ・学習課題に対するまとめを行う。	一斉 個別	レポート共有 (スプレッドシート)